公益財団法人サントリー芸術財団 サントリー美術館 107-8643 東京都港区赤坂 9-7-4 東京ミッドタウンガーデンサイド Tel: 03-3479-8604 Fax: 03-3479-8644

№. sma0066
（2024.1.11）

サントリー美術館
「サントリー美術館コレクション展　名品ときたま迷品」開催

会期：２０２４年４月１７日（水）～６月１６日（日）

鞠・鞠挟　一組
江戸時代　１８～１９世紀
サントリー美術館【通期展示】

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、２０２４年４月１７日（水）から６月１６日（日）まで「サントリー美術館コレクション展　名品ときたま迷品」を開催いたします。

「メイヒン」と聞いてまず思い浮かべるのは、国宝や重要文化財に指定され、その芸術的な価値の高さを誰もが認めるような「名品」ではないでしょうか。しかし「メイヒン」とは、それだけにとどまりません。これまでほとんど注目されず、展覧会にもあまり出品されてこなかった、知られざる「迷品」の世界もまた、同時に広がっているのです。そしてたとえ「迷品」とされるようなものであっても、少し視点を変えるだけで、強く心を惹かれる可能性を秘めているかもしれません。そうした時、「名品」と「迷品」を分ける明確な基準はないといえるでしょう。

そこで本展では、「生活の中の美」を基本理念とするサントリー美術館コレクションの「メイヒン」たちを一堂に会し、さまざまな角度から多彩な魅力をご紹介します。作品にまつわる逸話や意外な一面を知れば、「迷品」が「名品」になることも、「名品」が「迷品」になることも―目の前にある作品がどちらであるのか、それを決めるのは「あなた次第」。自分だけの「メイヒン」をぜひ探してみてください。

《本展の見どころ》

●知られざる秘蔵コレクションを多数出品

１９６１年の開館以来、「生活の中の美」を基本理念として収集活動を行ってきたサントリー美術館コレクションのなかから、これまであまり展示の機会のなかった作品を多数ご紹介します。

●国宝・重要文化財も大集合

国宝「浮線綾螺鈿蒔絵手箱」や重要文化財「泰西王侯騎馬図屏風」をはじめとする、サントリー美術館が所蔵する計１６件の国宝・重要文化財指定作品（国宝１件、重要文化財１５件）を可能な限り出品する予定です。一つの展覧会でこれらを通覧できる貴重な機会となります。

※作品の状態、その他やむをえない事情により、展示されない場合があります。

●「メイヒン」探しをお楽しみいただく展覧会

通常の作品解説に加えて学芸員によるマニアックな情報もご用意し、作品にまつわる逸話や意外な一面をお伝えします。一見しただけではわからない隠れた情報を知れば、作品に対する印象が変わるかもしれません。造形や表現などにとどまらない視点で作品を捉え直す、自分だけの「メイヒン」探しをお手伝いします。

《　展示構成　》

※作品は全てサントリー美術館所蔵　※展覧会会場では章と作品の順番が前後する場合があります

第１章　漆工　生活を美で彩る

国宝　浮線綾螺鈿蒔絵手箱
一合　鎌倉時代　１３世紀
【通期展示】

椿彫木彩漆笈
一背　室町時代　１６世紀
【通期展示】

漆工は日本美術を代表する伝統的な技術であり、精緻で美しい螺鈿や蒔絵が施された調度品は、主に高貴な人々の生活の場を飾ってきました。そして現代にまで伝えられた作品のなかには、比類なき完成度の高さゆえに「名品」とされるものも少なくありません。

一方で、漆工は時代とともに一般庶民にも浸透し、生活用品としてさまざまな場面を彩ってきました。飲食具を中心とするそれらの造形は、素朴や質素であることもしばしばですが、実用的な器の佇まいは、むしろ当時の人々の暮らしぶりや息づかいを直に伝えてくれています。

漆工は時代や身分を問わず人々に寄り添ってきた道具であるからこそ、装飾的な美しさだけにとどまらない魅力を秘めています。

本章でご紹介するサントリー美術館の漆工コレクションのなかにも、「身の回りに置いて使ってみたい」と心動かされる、あなたにとっての「メイヒン」があるはずです。

【主な出品作品】

・重要文化財　小倉山蒔絵硯箱　一合　室町時代　１５世紀
・重要文化財　菊蒔絵文台　一基　室町時代　１５世紀
・重要文化財　清水・住吉図蒔絵螺鈿西洋双六盤
一合　桃山時代　１７世紀初
・御簾綾杉蒔絵結文形文箱　一合　桃山時代　１７世紀初
・朱漆塗瓶子　一口　根来　室町時代　１５世紀

第２章　絵画　おおらかな心で愛でる

重要文化財　泰西王侯騎馬図屏風
四曲一双　桃山時代　１７世紀
【展示期間：４／１７～５／１３】

おようのあま絵巻
二巻のうち下巻（部分）　室町時代　１６世紀
【展示期間：５／１５～６／１６】

サントリー美術館の絵画コレクションは「生活の中の美」を探るという観点から、主に部屋の仕切りや床の間を飾るための調度品として使われた屏風・掛軸と、当時の人々の生活を映し出す絵巻からなっています。なかでも大名や貴族といった権力者の邸宅を飾った絢爛豪華な花鳥図屏風や風俗図屏風は壮観であり、その細部にわたる躍動感あふれる描写は、現代に生きる私たちの目にも鮮やかに映ります。

他方、室町時代のお伽草子絵巻では、迫力のある劇的な描写から技法とは無縁の素朴な描写まで幅広い画風が展開しています。そしてそれらは数百年もの間、世代を超えて人々に愛され、大切に伝えられてきたものです。そうだとすれば「上手に綺麗に描くこと」だけが、必ずしも「名品」の条件ではなかったといえるでしょう。

本章では、優れた表現で誰もが認める作品はもとより、見る者の心に直接訴えてくる無邪気な作品にいたるまで、多岐にわたる日本絵画をご紹介します。「上手い」「下手」にこだわらない、おおらかな心で作品を見つめれば、味わい深い自分だけの「メイヒン」に出会えるかもしれません。

【主な出品作品】

・重要文化財　佐竹本・三十六歌仙絵　源順　一幅
　画／伝 藤原信実・書／伝 後京極良経　鎌倉時代　１３世紀
・重要文化財　酒伝童子絵巻　三巻のうち
　画／狩野元信・詞書／近衛尚通・定法寺公助・青蓮院尊鎮　大永２年（１５２２）
・重要文化財　善教房絵巻　一巻
　画／書 伝 後光厳院　鎌倉時代　１４世紀
・かるかや　二帖　室町時代　１６世紀
・十二ヶ月景物図巻　二巻
　画／土佐光芳・書／櫛笥隆望　寛延２年（１７４９）

第３章　陶磁　人類最良の友と暮らせば

重要文化財　色絵花鳥文八角大壺
一合　肥前・有田　江戸時代　１７～１８世紀
【通期展示】

根引松文三耳壺
一口　丹波　南北朝時代　１４世紀
【通期展示】

日本におけるやきものの制作は縄文時代に始まり、常に海外からの影響を強く受けながらも、時代や地域によってさまざまに発展してきました。そして桃山時代から江戸時代にいたると、日本独自の造形が花開くこととなります。大胆な意匠の美濃焼、華麗な染付と色絵の伊万里、洗練を極めた鍋島、優美で雅やかな京焼など、それらのなかには優れた造形表現で日本を代表する「名品」に位置づけられる作品も少なくありません。

しかし、日本のやきものの長い歴史を見渡せば、美術品である以前に、人々の暮らしを支える必需品であったことを忘れることはできません。たとえば近代に評価の進んだ中世の壺は、貯蔵のための器として何世代にもわたって人間の手で伝えられてきた姿にこそ重みがあるのです。それはまさに生活の中で生み出された美の形といえるでしょう。

本章では、奈良時代から江戸時代にいたるサントリー美術館の多彩な陶磁コレクションをご覧いただきます。それぞれの作品がたどってきた歴史を紐解けば、「メイヒン」たちの知られざる魅力が見えてくるはずです。

【主な出品作品】

・三彩小壺　一口　奈良三彩　奈良時代　８世紀

・重要文化財　染付松樹文三脚大皿　一枚
肥前・鍋島藩窯　江戸時代　１７世紀末～１８世紀初

・重要文化財　色絵五艘船文独楽形鉢　一口
肥前・有田　江戸時代　１８世紀後半

・色絵縞文猪口　十口のうち
肥前・有田　江戸時代　１８世紀後半～１９世紀初

・色絵梅枝垂桜文徳利　一口　古清水　江戸時代　１８世紀

第４章　染織と装身具　装わずにはいられない

能装束　段に流水海松貝模様縫箔
一領　江戸時代　１８～１９世紀
【展示期間　４／１７～５／１３】

鼈甲台三味線棹形変り簪
一本　江戸時代　１９世紀
【通期展示】

生活のさまざまな局面に合わせて身なりを整える「装い」という行為において、染織品や装身具はその基本となるものであり、人々の美意識が凝縮されています。

たとえば和装の源流である小袖は、季節や儀礼に合わせて素材や模様が選ばれており、当時の暮らしの一端を垣間見ることができるでしょう。また、津軽の「こぎん刺し」や沖縄の「紅型」などでは、それぞれの地域の風土に根差した独特の美しさが注目されます。

一方の装身具では、江戸時代の飾り櫛や簪に驚くべき小さな美の世界が展開しています。その機知に富んだデザインは、髪を梳く、留めるという実用性を超えて、装わずにはいられなかった当時の人々の熱い想いが込められています。なかには一風変わった個性的なデザインも多く、それらは使う者のセンスが問われるものだったのでしょう。

今も昔もファッションの決め手は自らの「好き」にかかっています。本章では、お気に入りの服やアクセサリーを探すつもりで、自分だけの「メイヒン」を見つけてみてください。

【主な出品作品】

・白綸子地花束立涌模様打掛　　一領　江戸時代　１８世紀
・紫絹縮地葦に鷺模様単衣　　一領　江戸時代　１９世紀
・東こぎん　着物　　一領　江戸～明治時代　１９世紀
・紅型裂　花色地瑞雲霞枠に瑞雲鳳凰文
　　一枚　琉球王国　第二尚氏～明治時代　１９世紀
・鼈甲台ギヤマン芦雁図櫛　　一枚　江戸時代　１８世紀後半～１９世紀前半

第５章　茶の湯の美　曇りなき眼で見定める

色絵七宝繋文茶碗
一口　野々村仁清　江戸時代　１７世紀
【通期展示】

二福神文真形釜
一口　筑前・芦屋　室町時代　１５世紀
【通期展示】

日本の生活文化に大きな影響を与えつづけてきた茶の湯は、「生活の中の美」と切っても切れない存在です。

中世に誕生した茶の湯では、日常の器のなかから自らの目によって道具を選び出し、組み合わせを工夫して、茶会に招いた客人をもてなしてきました。これによって由緒を持たない無名の作品であっても、使い手次第で名だたる「名品」となりうる道が開かれ、多種多様な茶道具が生み出されるきっかけともなったのです。

素朴な土の趣から華麗な色絵にいたるまでの幅広い作風を見せる花入や茶碗、実用性のなかにも繊細な文様や大胆な造形が織り込まれた釜、漆工品を転用した香合など、本章でご紹介するサントリー美術館の茶道具コレクションは、まさにそうした茶の湯の自由自在な美の在り方を伝えるものとなっています。

もし、このなかから道具を選んで茶会を開くとすれば、どの作品をどのように組み合わせてみたいでしょうか。自分の好みの道具を見定めることは、まさに「メイヒン」探しに他ならないといえるでしょう。

【主な出品作品】

・旅枕花入　　一口　信楽　　室町時代　１６世紀
・赤樂茶碗 銘熟柿　　一口　本阿弥光悦　江戸時代　１７世紀
・兎蒔絵茶箱　　一合　　江戸時代　１７世紀
・重要文化財　白泥染付金彩薄文蓋物　一合　尾形乾山　江戸時代　１８世紀初
・花丸文銀象嵌鉄製手燭　　一対　　江戸時代　１８～１９世紀

第６章　ガラス　不透明さをも愛する

花器「カトレア」
一口　エミール・ガレ　フランス　１９００年頃
【通期展示】

乳白色ツイスト脚付杯
一口　江戸時代　１８世紀
【通期展示】

サントリー美術館のガラス・コレクションは、江戸時代の和ガラス、近世ヨーロッパのガラス、中国・清朝のガラス、そしてフランス・アール・ヌーヴォー期のエミール・ガレの作品など、産地も時代も幅広く、特に個性的なものとなっています。

これらのガラスは時代や地域が離れていても、互いに何らかの交流を持ってきました。ヨーロッパ諸国へ影響を及ぼしたヴェネチアン・グラス、中国やヨーロッパから技法が伝わった和ガラス、不透明な質感がガレを魅了した清朝ガラスなど、古今東西の美が昇華され、数々の芸術性の高い「名品」が生み出されていったのです。

一方で、ガラスもまた、身近な「生活の中の美」であったことは見逃せないでしょう。突起の付いたドイツのシュタンゲン・グラス、回し飲みのためのスペインのカンティール、そしてどこか儚げな日本の脚付杯など、暮らしに根差した独特の造形世界が展開しています。

本章では王侯貴族のための華麗な作品から実用性重視の器まで、さまざまな時代や地域にわたるガラスをご紹介します。各地の生活文化を知れば、透明さや儚さとはまた違った魅力をたたえる「メイヒン」を見つけることができるでしょう。

【主な出品作品】

・シュタンゲン・グラス	一口	ドイツ	１６世紀
・レースガラス・カンティール	一口	スペイン	１７世紀末～１８世紀初
・白地二色被花鳥文瓶	一口	中国 清時代・乾隆－嘉慶年間	１８世紀
・藍色ちろり	一合	江戸時代	１８世紀
・薩摩切子 藍色被船形鉢	一口	薩摩藩・日本　江戸時代	１９世紀

サントリー美術館コレクション展　名品ときたま迷品

▼会　　期：２０２４年4月１７日（水）～6月１６日（日）
※作品保護のため、会期中展示替を行います
▼主　　催：サントリー美術館、朝日新聞社
▼協　　賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス
▼会　　場：サントリー美術館
東京都港区赤坂９－７－４　東京ミッドタウン　ガレリア３階

交通機関（東京ミッドタウン［六本木］まで）
都営地下鉄大江戸線六本木駅出口８より直結
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口３より徒歩約３分

【基本情報】
▼開館時間：１０時～１８時
※金曜および4月２７日（土）、２８日（日）、5月2日（木）～5日（日・祝）、6月１５日（土）は２０時まで開館
※いずれも入館は閉館の３０分前まで
▼休 館 日：火曜日（6月１１日は１８時まで開館）
▼入 館 料：
・当 日 券：一般1,５００円、大学・高校生1,０００円、中学生以下無料
・前 売 券：一般1,３００円、大学・高校生８００円
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱
※前売券の販売は２０２４年1月３１日（水）から4月１６日（火）まで
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
▼割　　引：
・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で１００円割引
・団体割引：２０名様以上の団体は１００円割引
※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

【イベント情報】
▼展覧会関連プログラム
ファミリータイム
日　時：5月5日（日・祝）１０時～１３時
中学生以下のお子さまをお連れの方は入館料が割引になる、キッズフレンドリーな時間帯です。鑑賞支援ツールやレクチャーなどを利用して、子どもから大人まで、気軽に鑑賞をお楽しみください。
※お子さまと一緒の鑑賞を支援する時間帯となりますが、どなたでもご入館いただけます

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日　時：４月１８日（木）、５月２日（木）・１６日（木）・３０日（木）、
６月１３日（木）
１２時、１３時、１４時、１５時にお点前を実施
（お点前の時間以外は入室不可）

会　場：６階茶室「玄鳥庵」　定員：各回１２名／１日４８名

呈茶券：１,０００円（別途要入館料）

※呈茶券は当日１０時より３階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様２枚まで）

詳細および最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

【お問い合せ】

▼一般お問い合わせ ：０３－３４７９－８６００

▼美術館ウェブサイト：https://www.suntory.co.jp/sma/

▽広報画像のお申込み：

https://www.artpr.jp/prs/meihin2024

▽報道関係のお問合せ：

「サントリー美術館コレクション展　名品ときたま迷品」広報事務局
（株式会社ＯＨＡＮＡ内）担当：妹尾・細川
ＴＥＬ　　：０３－６８６９－７８８１
Ｅ－ｍａｉｌ：meihin@ohanapr.co.jp

▽美術館への取材に関するお問い合わせ：

サントリー美術館〔学芸〕柴橋〔広報〕石松
https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以　　上